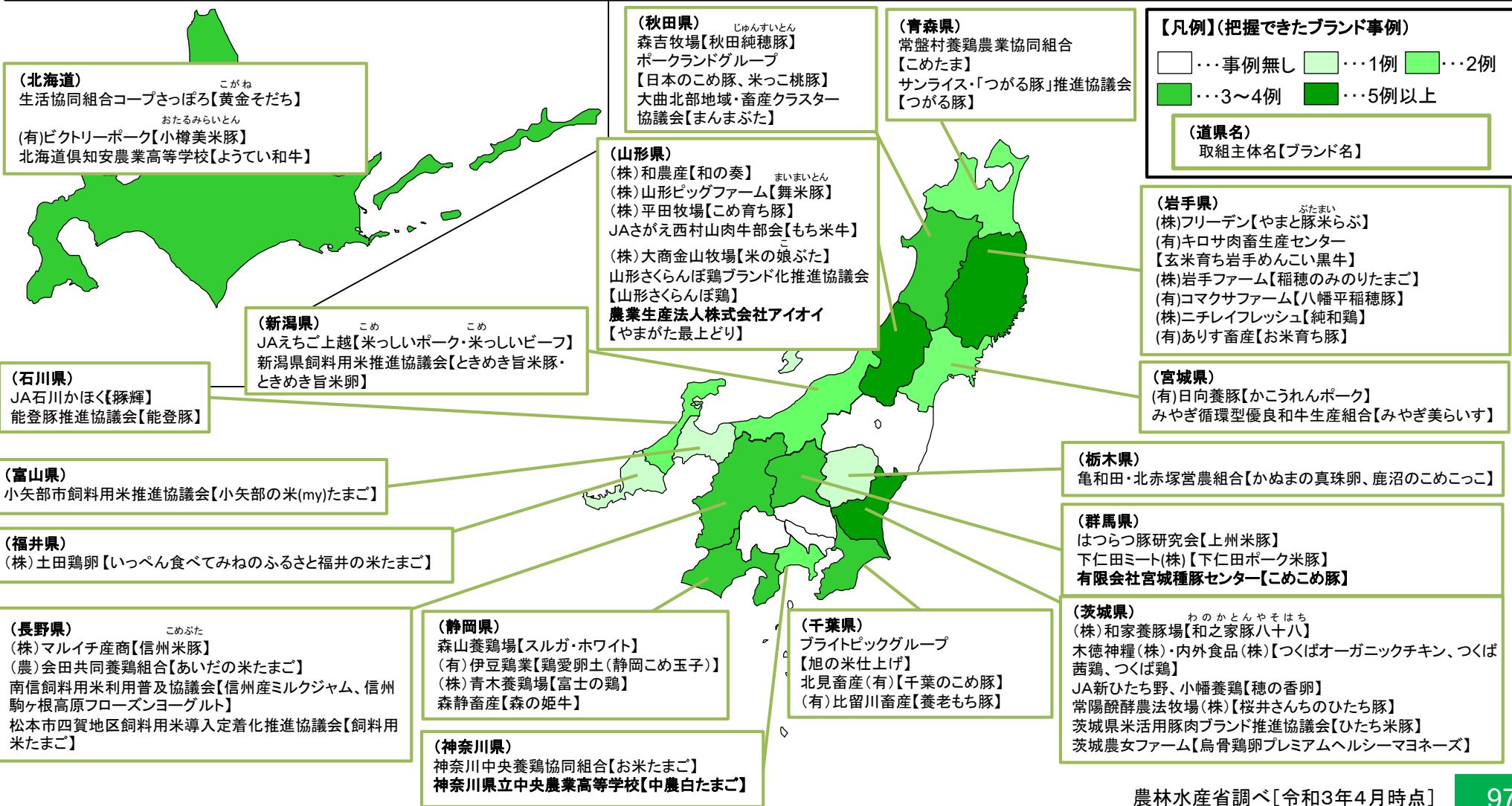
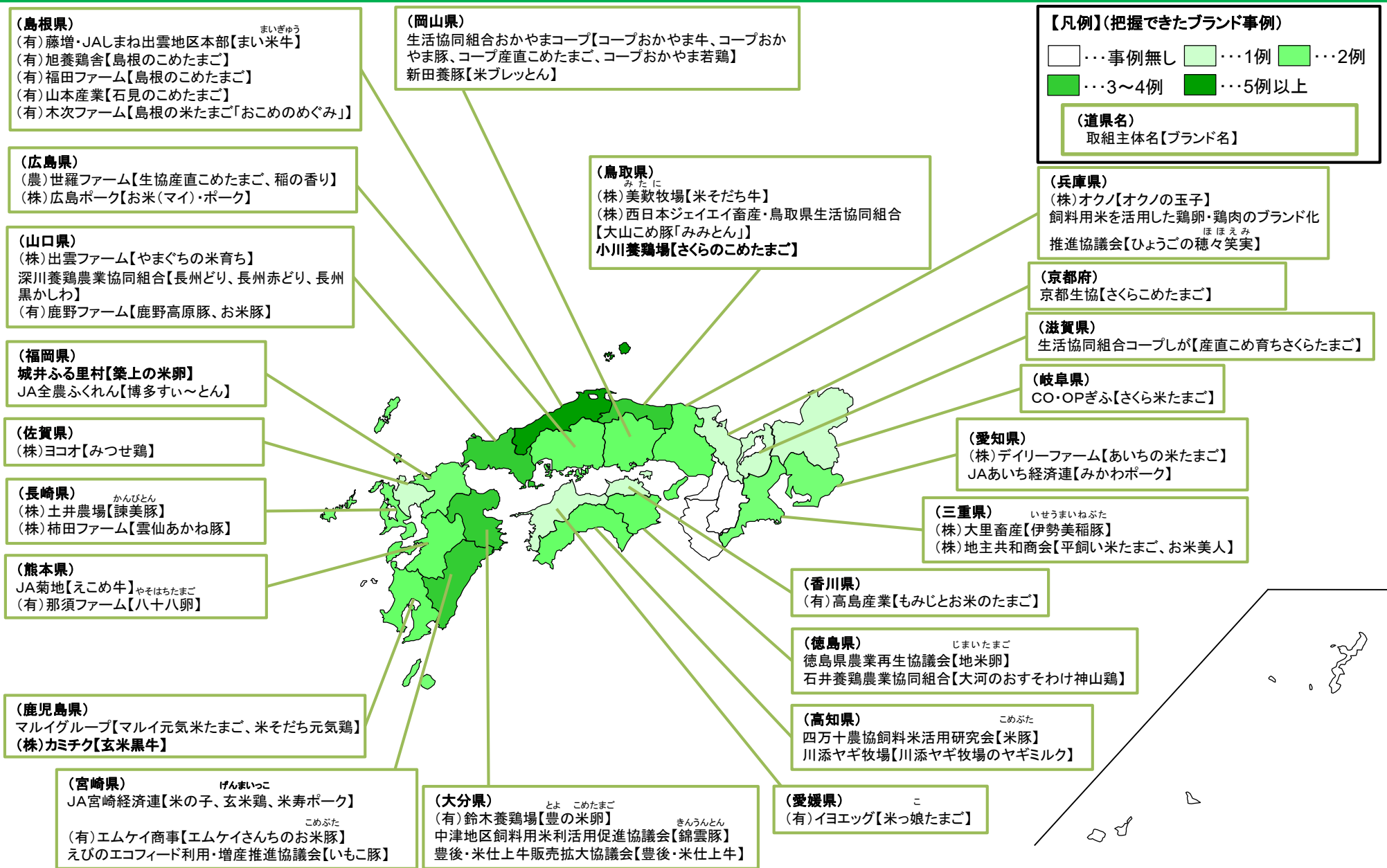


# 飼料用米を活用した畜産物のブランド化事例①

- 飼料用米の利活用に際しては、単なる輸入とうもろこしの代替飼料として利用するのみならず、その特徴を活かして畜産物の高付加価値化を図ろうとする取組が見られる。(39道府県97事例)
- 国産飼料であることや水田の利活用に有効であること等をアピールしつつ、飼料用米の取組に理解を示す消費者層等から支持を集めつつある。



# 飼料用米を活用した畜産物のブランド化事例②



# 「飼料用米多収日本一コンテスト」の開催

## ■ 趣 旨

飼料用米生産農家の生産水準の向上を推進するため「飼料用米多収日本一」を開催し、生産技術の面から先進的で他の模範となる経営体を表彰し、その成果を広く紹介する。

## ■ 内 容

全国の飼料用米生産者のうち

- ①多収品種（知事特認含む）で、
  - ②作付面積がおおむね1ha以上、
  - ③生産コスト低減等に取り組む
- 経営体からの応募を受け、飼料用米の10a当たりの収量が優れる経営体を表彰。

## ■ 褒賞区分

- ・ 農林水産大臣賞
- ・ 農産局長賞
- ・ 全国農業協同組合中央会会長賞
- ・ 全国農業協同組合連合会会長賞
- ・ 協同組合日本飼料工業会会長賞
- ・ 日本農業新聞賞



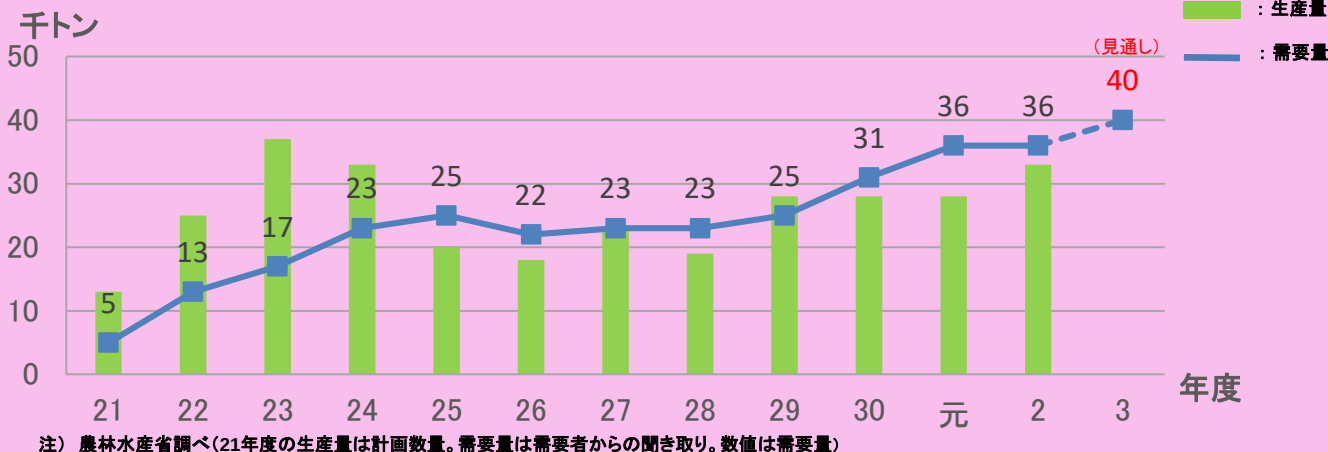
## ■ 令和2年度受賞者（敬称略）

| 褒賞区分           | 単位収量の部                     |      | 地域の平均単収からの増収の部              |      |
|----------------|----------------------------|------|-----------------------------|------|
|                | 受賞者                        | 都道府県 | 受賞者                         | 都道府県 |
| 農林水産大臣賞        | 出島 博昭                      | 秋田県  | 農事組合法人 伏古生産組合<br>代表理事 柴田 隆  | 北海道  |
| 政策統括官賞         | 有限会社 豊心ファーム<br>代表取締役 境谷 一智 | 青森県  | 遠目塚 春生                      | 宮崎県  |
| 全国農業協同組合中央会会長賞 | 農事組合法人 ふながわ<br>代表者 由井 久也   | 富山県  | 伊藤 裕彦                       | 北海道  |
| 全国農業協同組合連合会会長賞 | 浅井 孝司                      | 北海道  | 天水 茂                        | 北海道  |
| 協同組合日本飼料工業会会長賞 | 高橋 俊恵                      | 青森県  | カンドーファーム株式会社<br>代表取締役 田尻 一輝 | 島根県  |
| 日本農業新聞賞        | 五十嵐 光博                     | 山形県  | 柿並 博志                       | 宮崎県  |

# 米粉用米の状況

- 米粉用米の需要量は、平成24年度以降、2万トン程度で推移。米粉の特徴を活かし、グルテンを含まない特性を発信する「ノングルテン米粉第三者認証制度」や「米粉の用途別基準」の運用を平成30年から開始したところであり、米粉の需要量が拡大。
- さらなる米粉の国内普及・輸出拡大に向けて、令和2年10月にノングルテン米粉の製造工程管理JASを制定し、令和3年6月から認証を開始。

## 米粉用米の生産量・需要量の推移



## ノングルテン米粉表示

- ◆ グルテンフリー表示は、グルテンが原因となる疾患対策として、欧米で制度化されている表示制度(グルテンの含有基準値20ppm)。
- ◆ 高品質な日本産米粉をアピールするため、グルテン含有量1ppm以下の製品を対象とした表示制度である、「ノングルテン米粉第三者認証制度」の運用を平成30年6月から開始。
- ◆ ノングルテン米粉を使用した加工食品を登録し、ノングルテン米粉使用マークを付与する仕組みを令和元年9月に開始。



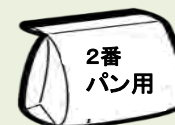
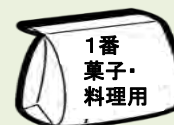
## ノングルテン米粉の製造工程管理JAS

- ◆ 米粉の製造工程において、グルテンが混入する可能性のある箇所を特定し、グルテンの混入を防ぐことにより、製品のグルテン含有量が1ppm以下となるように製造工程を管理。
- ◆ ノングルテン米粉第三者認証制度による製品認証との二本柱により米粉の輸出や需要拡大に寄与。



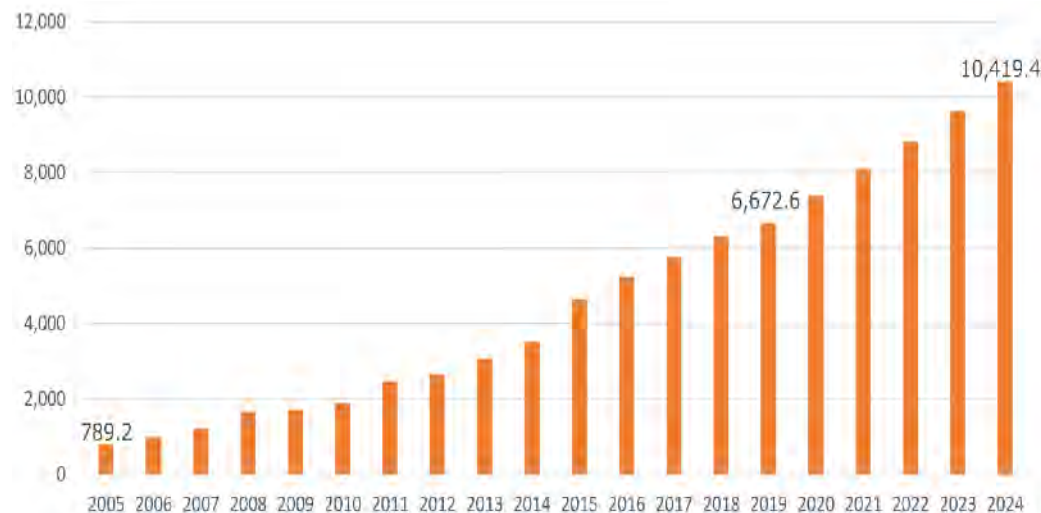
## 米粉の用途別基準

- ◆ 米粉の用途別の加工適正の統一表記(1番:菓子・料理用、2番:パン用、3番:麺用)を行う「米粉の用途別基準」を平成30年1月から開始。



## 世界のグルテンフリー市場規模

アメリカや欧州を中心に、  
世界のグルテンフリー市場は順調に拡大しており、  
2024年には約100億USDに達する見込み



図：世界のグルテンフリー市場

注：2020年以降は予測値  
出所：Euromonitor Dataを基にJFOODOにて作図

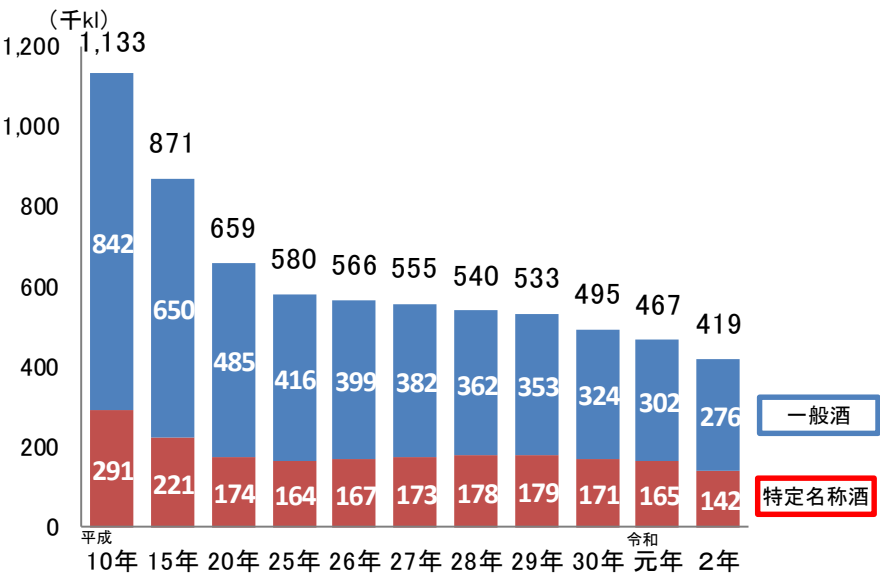
## 米粉によるグルテンフリー市場の 取り込みに向けて

- ◆ グルテンフリー市場は、麦類に含まれるグルテンによるアレルギー、セリアック病、グルテン過敏症、ダイエット等に対するニーズにより形成
- ◆ 米は成分としてグルテンを含んでいないため、近年、米粉やその米粉を利用した商品の製造に取り組むメーカーも増加
- ◆ 平成30年6月から、グルテンフリー表示よりも高い水準をクリアして、グルテン含有「1ppm以下」の米粉を「ノングルテン表示」でアピールする「ノングルテン米粉第三者認証制度」を開始
- ◆ また、令和2年10月には、更なる輸出拡大に向けて「ノングルテン米粉の製造工程管理JAS」を制定

# 日本酒原料米の需要動向について

- 日本酒原料米の使用量については、日本酒出荷量の減少に伴い、減少傾向にある。
- 令和2年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、業務用の日本酒を中心に国内出荷量が対前年比▲10%と減少。特に、酒造好適米を多く使用する特定名称酒は対前年比▲14%と大幅に減少。さらに、輸出についても、令和2年8月まで大幅に減少し、9月以降回復したものの、年間トータルでは対前年比▲13%と減少。
- 令和3年は、国内出荷については、昨年並み(対前年比▲1%)の出荷量となっている一方、輸出については、中国、香港等への輸出が好調で、対前年比+67%、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった一昨年と比較しても+9%と増加している。

## ○ 日本酒の国内出荷量の推移



資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。  
注1：国内出荷量は、清酒課税移出数量。  
2：日本酒は、一般酒のほか、原料、製造方法等の違いによって吟醸酒、純米酒等8種類に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

## ○ 日本酒の輸出数量の推移

| 平成 | 10年 | 15年 | 20年 | 25年 | 26年 | 27年 | 28年 | 29年 | 30年 | 令和 | 元年 | 2年 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 8  | 8   | 12  | 16  | 16  | 18  | 20  | 23  | 26  | 25  | 22 |    |    |

資料：「貿易統計」(財務省)。年は暦年。

## ○ 日本酒原料米の使用量

|        | 平成<br>10年産 | 15年産 | 20年産 | 25年産 | 26年産 | 27年産 | 28年産 | 29年産 | 30年産 | 令和<br>元年産 |
|--------|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----------|
| 日本酒原料米 | 405        | 315  | 261  | 243  | 248  | 251  | 241  | 240  | 227  | 206       |
| 酒造好適米  | 99         | 75   | 77   | 76   | 90   | 99   | 97   | 94   | 88   | 83        |
| 加工用米   | 86         | 89   | 74   | 95   | 105  | 94   | 93   | 88   | 90   | 85        |
| その他    | 220        | 151  | 110  | 72   | 53   | 58   | 51   | 58   | 49   | 38        |

資料：農林水産省による推計値。

## ○ 令和3年の月ごとの日本酒の国内出荷量及び輸出量の推移

|                  | R3年<br>1～5月      | 1月               | 2月              | 3月               | 4月               | 5月              |
|------------------|------------------|------------------|-----------------|------------------|------------------|-----------------|
| 国内出荷量<br>(前年同月比) | 150,987<br>(99%) | 23,707<br>(94%)  | 30,805<br>(92%) | 36,861<br>(100%) | 37,556<br>(107%) | 22,058<br>(99%) |
| 特定名称酒<br>(前年同月比) | 48,475<br>(99%)  | 8,242<br>(80%)   | 9,323<br>(83%)  | 11,386<br>(104%) | 11,927<br>(124%) | 7,597<br>(108%) |
| 一般酒<br>(前年同月比)   | 102,512<br>(99%) | 15,466<br>(104%) | 21,482<br>(96%) | 25,475<br>(98%)  | 25,629<br>(101%) | 14,461<br>(95%) |
| 輸出量<br>(前年同月比)   | 12,309<br>(167%) | 1,841<br>(133%)  | 2,070<br>(114%) | 2,889<br>(157%)  | 2,884<br>(211%)  | 2,623<br>(265%) |

資料：国内出荷量は日本酒造組合中央会調べ。輸出量は「貿易統計」(財務省)。年は暦年。  
注：日本酒の一般酒は、国内出荷量から特定名称酒の数量を差し引いて算出。

# 酒造好適米の需要に応じた生産について

- 酒造好適米の需要に応じた生産に向けて、生産及び実需の関係者による「日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会」を毎年開催するとともに、需要に応じた生産を行うための指標として、平成28年度から全酒造メーカーを対象とした酒造好適米の需要量調査を実施し、調査結果等を公表。
- 令和2年7月に実施した需要量調査及び令和3年1月に実施した追加調査等によると、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、
  - ① 令和2年産については、酒造好適米の全体需要量は前年産を大きく下回る70～71千トン程度と推計され、生産量（推計値）が需要量を12～14千トン程度上回る状況
  - ② 令和3年産については、酒造好適米の全体需要量は65～67千トン程度と推計され、大幅な生産抑制が必要と見込まれる。

## ○ 酒造好適米の需要量調査の実施状況

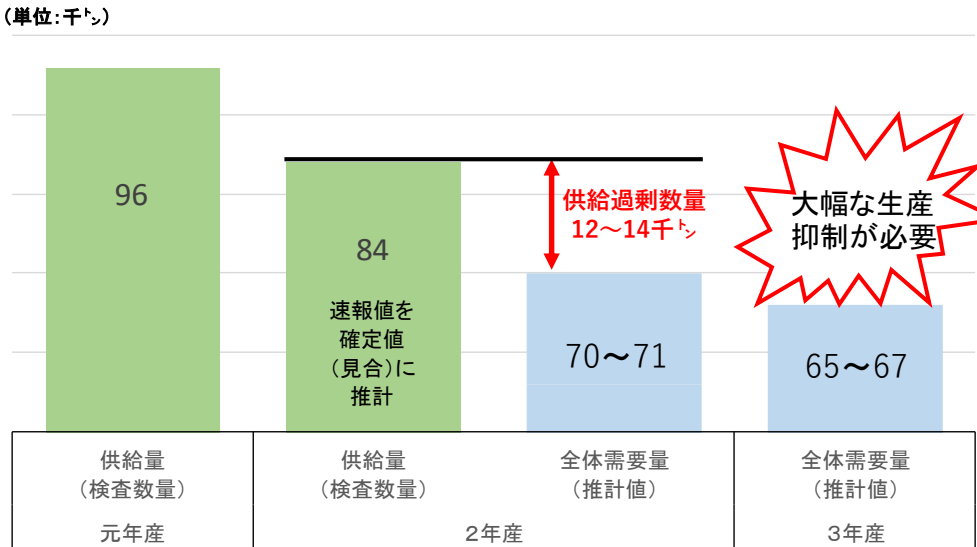
|            | 需要量調査  | 追加調査                                      |
|------------|--------|-------------------------------------------|
| 調査期間       | 令和2年7月 | 令和3年1月                                    |
| 調査対象メーカー数  | 1,421社 | 50社<br>（前回調査回答酒造メーカーのうち酒造好適米購入量が多い上位50社）  |
| 回答酒造メーカー数  | 730社   | 47社                                       |
| 回答率（数量ベース） | 79～80% | 前回調査回答酒造メーカーの55%<br>（全体需要量に対する回答率は43～44%） |

## ○ 酒造好適米の生産状況

| (単位:千トン) |      |      |      |      |      |      |      |      |       |     |  |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-----|--|
| 平成10年産   | 15年産 | 20年産 | 25年産 | 26年産 | 27年産 | 28年産 | 29年産 | 30年産 | 令和元年産 | 2年産 |  |
| 99       | 75   | 77   | 76   | 90   | 109  | 107  | 102  | 96   | 96    | 84  |  |

資料:「農産物検査結果」(農林水産省)  
注:令和2年産は、令和2年12月31日現在の速報値を直近3力年の12月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計したもの。

## ○ 酒造好適米の全体需給の状況(推計)



注1: 供給量は、農産物検査数量(醸造用玄米)の値。ただし、令和2年産は、令和2年12月31日現在の速報値を直近3力年の12月31日現在の農産物検査数量の進捗率により確定値見合いに推計。  
注2: 令和2年産及び令和3年産の需要量は、令和2年7月に実施した需要量調査結果及び令和3年1月に実施した追加調査結果から推計したもの。今後の酒造メーカーにおける需給状況により変動する場合があることに留意する必要。

## ⑤ コメの輸出・輸入

---